



西日本豪雨

桐生のボランティア被災地へ

猛暑耐え復旧尽力

【岐阜＝丸岡美貴】甚大な被害をもたらした西日本豪雨の被災地には、全国からボランティアが続々と駆け付け、復旧作業を進めている。桐生災害支援ボランティアセンター（宮地由高センター長）が派遣した8人が15日、千歳近くが浸水被害に遭った岐阜卓関市に

使えなくなった家具を運ぶ桐生災害支援ボランティアセンターのメンバーら15日午後1時35分こ

入り、被災ごみを分別した。

関連記事 2、3画

一行は午前4時すぎに桐生をバスで出発し、同10時ごろ関市に到着した。同市によると、津保川沿いなどに点在する集落が濁流にのみ込まれ、死傷者2人、全半壊6棟、床上、床下浸水計936棟の被害が出た。

現地ボランティアセンターの指示を受け、一行は上之保地区の15棟分のごみの分別を担当した。最高気温が37度を超える猛暑の中、約2時間、使えなくな

った机や家電などを運んでトラックの荷台に載せたり、一緒に活動していたボランティアに持参した飲料水を配ったりした。

作業を見守っていた60代女性は「床には10センチ以上の泥が積もり、冷蔵庫や洗濯機がひっくり返っていた。自力ではとても片付けられなかった。ボランティアに感謝している」と、目を潤ませていた。16日も同地区で活動する。